

市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ

「2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて平塚を盛り上げよう」

開催結果報告書

1 開催日時 平成30年（2018年）12月18日（火）
14時から16時まで

2 開催場所 平塚市役所 本館 302会議室

3 参加者 東海大学

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 教授 伊藤 栄治
学生11名

平塚市

平塚市長 落合 克宏

担当課：(秘書広報課、オリンピック・パラリンピック推進課、商業観光課、総合公園課、スポーツ課)

事務局：市民情報・相談課



4 あいさつ

【平塚市長 落合 克宏】

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、市長と語ろう！ほっとミーティングに参加いただきありがとうございます。

ほっとミーティングは、皆さんの若い視点・感性から、市政に対して提言いただき、1つでも多くの提案を実現できればと思います。

今回、提案いただくテーマは、今後、市政を進めるに当たっても重要なテーマであるため、提言をいただけるのはとてもありがたいと思います。

今まで学生の皆さんと対話する中で、若い世代の発想の豊かさ、規制に縛られない発想が面白いと感じました。本日も、私たちが平塚の魅力を再発見できる提案をいただければありがたいと思います。

また、参加された皆さんの平塚市に対する認知度が高まり、学びの幅が広がれば、私達としてもありがたいと思います。

現在、選挙権年齢が18歳以上に引き下げになったことで、世の中全体が若い人たちの考えを積極的にとり入れ、未来の魅力あるまちを創っていくという機運が高まっています。

本日は様々な角度から、平塚の魅力化に関する取組について考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 教授 伊藤 栄治】

今回、このような機会をいただきありがとうございます。

過去2年間のほっとミーティングの状況を見ると、参加学生の数が多く、直接市長と話す機会が無かった学生もいると聞いています。

本日は、就職活動を目前に控えた3年生が提案をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

5 学生提案の内容

【テーマ】

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて平塚を盛り上げよう
--

【提案者】

東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 学生11名

【提案内容】

平塚市総合計画から抜粋した資料及び現地調査を基に、平塚市の現状を分析しました。

○平塚市の現状

- ・生活習慣や環境の変化により、市民のスポーツに取り組む機会や意欲が減少している
- ・子どもや高齢者の体力低下、青・壮年期の運動不足による健康への影響が懸念される
- ・スポーツの活動拠点となる施設の老朽化
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、多くの市民がさまざまな形でスポーツと関われる環境を整える必要がある

○現状分析

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連

- ・プロモーションの動きが少ない
- ・リトアニア共和国との連携・協力をどこまでするのか明確ではない
- ・市役所の展示スペースが簡素なものだった
- ・普段の生活で市民の目に入る場所へのアピールがない

平塚市全体

- ・体育館施設利用をしている人の大半が高齢者だった
- ・体育館施設の利用者が少ない。かつ利用のハードルが高い
- ・スポーツ施設の老朽化
- ・平塚駅から主要な施設へのアクセスが良い

これらの分析から、次の5つを提案します。

提案1 オリンピック・パラリンピック委員会の立ち上げ

オリンピックメダリストを多く輩出している東海大学で、現役学生の有志を募り、大学公認の委員会として活動を行うことにより、考えてくれる人を増やす。

- ・大会ボランティアや都市ボランティア希望者の増加
- ・オリンピックという大会の価値を上げていくことができる
- ・オリンピック後イベント等を開催するためのノウハウの蓄積
- ・イベントの開催で得た経験を今後のイベント運営に活かせる
- ・市民のスポーツ関心度が高くなり、地域スポーツクラブへの入会、スポーツイベントへの参加など地域活性化につながる
- ・レガシーの創造につながる

提案2 イベント開催

トレンドはモノ消費からコト消費へ移行している。コト消費はモノ消費を促す傾向にあることから、

- ・例年6月に行われている「湘南よさこい祭り」を東京オリンピック・パラリンピックに合わせて開催し、外国人も参加可能なルールを作る
 - コト消費
- ・毎年7月に行われている「湘南ひらつか七夕まつり」にて東京オリンピック・パラリンピックに関する七夕飾りの作成、リトアニア共和国応援の七夕飾りの作成
 - 市民の興味・関心を高める
- ・「七夕まつり」もオリンピック・パラリンピック期間に合わせて開催
- ・市民に東京オリ・パラアンケートを実施
 - どこまで定着が進んでいるか可視化を行う

提案3 PR活動

ターゲットは、平塚市民・リトアニア共和国・日本全国に対して、PR活動を実施する。

平塚市がリトアニア共和国のホストタウンという認知度が低い



人がいる場所・見える場所でのアプローチ



平塚駅周辺・商店街・平塚市内各施設でのPR活動の実施

- ・平塚駅：「平塚市がリトアニア共和国事前キャンプ地に決定」を周知する
地下道ミュージアムにてリトアニア共和国の絵の展示
- ・商店街：リトアニア共和国や東京五輪を絡めたサービス・フラッグの掲示
- ・よさこい祭り：リトアニア共和国選手団のよさこい祭りへの参加や
日本文化の体験
平塚ソウルフードやリトアニア共和国のフードの出店
- ・七夕祭り：リトアニア共和国の選手団がステージに登場

提案4 平塚ミニオリンピック・パラリンピック開催

新規イベントを開催する。

- ・開催期間：2019年夏季の2日間
- ・会場：平塚市総合公園 他
- ・主催：平塚市、東海大学
- ・参加者：誰でも
- ・参加費：無料

- ・種目：オリンピック競技
 - バスケットボール・水泳・マラソン・野球など
- パラリンピック競技
 - ボッチャ・車椅子バスケットボールなど
- ・ゲスト：平塚市にゆかりのあるオリンピック・パラリンピック選手
 - 【例】 穂積 絵莉選手（テニス）
 - ベイカー 茉秋選手（柔道）

提案5 スポーツ環境の整備

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、多くの市民がさまざまな形でスポーツと関わることのできる環境を整える。

- ・海外では、学生スポーツの規模が日本とは違う。各スポーツ競技に専用の競技場やトレーニング施設が整備されている
- ・観戦希望者をより多く収容できる施設を整備する必要がある
- ・アメリカ合衆国の学生教育、学生スポーツを統括するスポーツ組織「NCAA（全米体育協会）」の日本版である「UNIVAS（ユニバス）」という大学スポーツの組織が、2019年に発足する。

◆UNIVAS の役割

大学・学連と密に連携し、企業や消費者との核となり繋ぐことで好循環サイクルを実現する

◆事業内容

- ①学業充実
- ②安心安全
- ③事業・マーケティング

◆AD（Athletic Department）の存在

各大学におけるスポーツ分野の取組を戦略的に推進するためには、スポーツ分野を一体的に統括する部局（AD）を設置することは有効な方策である。また、それぞれの知識（経理・医療・マーケティングなど）を持った人（SA）の存在がより大切になってくる。

○上記を踏まえた東海大学における具体的な案

ホームアンドアウェイ型試合の試験的実行とスポーツボランティア普及啓発活動

- ・現在、バスケットボール部（SEAGULLS）が毎年ホームゲームを開催している。この試合のマネジメント（ボランティア）は体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科が主に行っている。

- (1) ADが学生スポーツボランティア組織を統括する
※例：東海大学チャレンジセンタースポーツ社会貢献プロジェクト
- (2) ADが学内・地域スポーツイベントボランティアへ集客を依頼
- (3) 本学生であれば、誰でも参加できるような形を作る
- (4) 体育会所属学生以外の学生に対し、大学スポーツに対する価値観を変化させる

【まとめ】

- ・平塚市のスポーツ施設を有効活用し、各種団体やリトアニア共和国との連携によって、スポーツの価値をさらに高めることができると考えます。
- ・多くのプロモーションを行い、市民への認知度が向上すれば、その存在価値がさらに高まると考えます。
- ・学生と行政が一体となり、平塚市を盛り上げることで、今後、平塚市と東海大学がこれまで以上に全国に展開できる環境が整うと考えます。

6 大学生と市長・職員との対話

【市長】

提案を受け、率直なところ「いいところを突いているな」という感想を持ちました。

平塚市がリトアニア共和国のホストタウンになるとともに、事前キャンプ地となることが決まりました。しかし、市民と一体となった取組がまだまだ広まっていないと感じています。

今年の10月には、オリンピック・パラリンピックの選手やリトアニア共和国の首相が訪れ、子どもたち、体育関係者など、述べ7,000人と交流ができました。しかし、それでもまだまだ市民認知が足りないと感じています。

今、御提案いただいたように、市民に参画してもらいながら盛り上げていかなければならないと改めて感じました。

リトアニア共和国が平塚市を事前キャンプ地に選んだ大きな理由は、まとまって事前キャンプを行える環境があること、市内に東海大学があること、リトアニア共和国選手のレベルアップができる環境があることです。東海大学の皆さんが、施設とマンパワーで応援いただければ、こんなに心強いことはありません。

ぜひとも一緒にリトアニア共和国との交流、事前キャンプなどに支援いただければありがたいと思います。

市民をどのように巻き込んでいくか、東海大学との連携で選手をどのように迎え入れることができるのか。今の提案を参考にして取り組んでいきたいと思っています。

そして今年、パラリンピックの事前キャンプについても協定を締結できました。

平塚市はろう学校や盲学校、養護学校と、障がいのある方のための学校がたくさんあります。また、東海大学のある金目地区は、明治時代に盲学校の礎が造られた場所です。

このような理由から、もともと平塚市が障がい者に対する理解があるまちということで、委員会と協定を結びました。

リトアニア共和国とのつながりを含めて、レガシーをどのように作っていくか。レガシーとは建物など形あるものだけではないと思います。

これから先、子どもたち、市民、東海大学の力もお借りして、リトアニア共和国との交流が2020年以降も続く関係をしっかりと作っていきたいと思います。

【伊藤教授】

学生たちのほとんどは小田急線沿線に住んでいるため、東海大学が平塚市にあるというイメージが実感できていないようです。

小田急線を利用した平塚のイメージづくりをするには、東海大学は何ができるかという観点からも話し合いました。今後も、東海大学は平塚市にあるということを意識付ける取組を行っていきます。

【市長】

東海大学の北側に広い歩道があり、現在、北金目真田線（道路）を整備しています。市で拡幅のため用地を買い、バスベイのようなものをつくり、平塚駅と東海大学をつなぐ路線をつくっていくという、ハード面の強化をすすめています。これにより、東海大学との距離がより近くなるようなあり方を作りたいと思います。

リトアニア共和国との交流に当たっては、御提案いただいたように学生が一緒になってできる仕組みがあれば心強いので、ぜひお願いしたいと思います。

【伊藤教授】

2019年に、「UNIVAS（ユニバス）」という大学スポーツの組織が発足するとスポーツ庁から発表がありました。初年度で約200大学、20億円の収益を見込んでスタートするとのことでした。

アメリカ合衆国の事例を見ると、ホームアンドアウェイで試合をすることがほとんどです。その場所にある大規模なスポーツ施設で試合を行うことで、選手だけでなく地域住民、一般学生を取り込み、地域や学生のアイデンティティを創出しています。

財政上、難しいと思いますが、大学と行政とで産学連携し、より観戦環境の

良いスポーツ施設ができないでしょうか。実現すれば、「スポーツのまちひらつか」をアピールでき、東海大学の資源であるスポーツも全面的に活用できるのではないかと、学生たちとよく話しています。

【市長】

平塚市としては、「平塚市スポーツ推進計画」を策定し、「する・観る・支える」という観点からスポーツを振興しています。これは、健康な市民をたくさんつくり、元気で暮らしていけるまちづくりをしなければならないという目標にたどり着きます。

昔から平塚はスポーツが盛んなので、人口規模からすると、市民一人当たりの公共施設保有率が高いまちです。「いいところを突いている」と感じたのはこのような理由からです。しかし、公共施設の老朽化が進んでおり、魅力アップをしていくのか、集約していくのか、公共施設の再編計画を含めて考えていかなければなりません。古くなった施設を廃止し、次の世代にどのようにつなげるのかが課題です。

自治体が求められる最適なものを、どこに重点をおくのか考えなければなりません。これにリトアニア共和国、オリンピック・パラリンピックの交流を使わない手はないと思います。

大きい施設は財政的に難しいですが、ひとつひとつの施設を魅力的にしていけるのか、機能を集約するのか、どのように魅力的なスポーツができる環境を整えるのか、考えなければなりません。

以降、担当課を交えた質疑応答へ

【市長】

市民から、「なぜリトアニア共和国と交流するのか」「なぜオリンピックに平塚が関わるのか」という声をいただくことがあります。その先にある取組について、市民の認知度が低く、理解されていないためです。

日本の一大プロジェクトであるこの機を捉え、平塚市を海外へ発信できれば、まちの価値も高まると思います。しかし、中には理解いただけない方もいます。

皆さんに聞きたいのですが、これについてどう思いますか。「このまま進めた方がいい」「もっと詰めた方がいい」など、感想があればお願いします。

【学生】

小学校の英語の授業で、AETとして来る外国人の先生は、授業の内容を話すだけで終わってしまうので、あまり交流できたと感じません。

リトアニア共和国の選手団に来てもらう際に、体育の授業と抱き合わせでもよいので、英語での交流ができないでしょうか。小学生など、子どもを巻き込

んでいけば、自然と親もついてくるのではないのでしょうか。

【市長】

英語指導員というのはいいい考えだと思います。リトアニア共和国の公用語はリトアニア語ですが、英語教育にも力を入れています。

リトアニア共和国に「カウナス」というまちがあり、協定を結び、交流しています。実際に選手団が平塚を訪れた際には、市内の小学校と交流しました。

小学生の世代から交流を経験することで、他の国を知り体験する機会があれば、より深くすすめていきたいと思います。

【オリンピック・パラリンピック推進担当部長】

昨年4月から、「ひらつかリトアニア交流推進実行委員会」という市民組織をつくり、交流をすすめています。

今回、大学の方で実行委員会をつくるという提案をいただきました。

市の実行委員会と連携し、若い考え方、バイタリティ、マンパワーをお借りしてすすめることができれば、すばらしい交流につながると思いました。

ぜひ本日の提案のいくつかを実行できるようにつなげていきたいと思います。

【スポーツ課課長代理】

今回いただいた提案の中で、スポーツ課においても悩んでいる部分があります。イベントを開催しても人が集まらないという点です。

スポーツをする機会の提供、場所の提供は行っていますが、参加者を増加させることがネックとなっています。

ポスターなど紙媒体、会議でのお知らせ以外に、「ひらつかスポーツナビ」でのPRを行っています。スマートフォンが普及し、高齢者でもインターネットをする方が多いので、ウェブサイトがあること自体のPRもしなければならぬと考えています。

PR活動について、大学イベントの周知方法など、皆さんの実体験からアドバイスをいただけないでしょうか。

【学生】

東海大学のチャレンジセンターでも、紙媒体やSNSを利用してPRを行っています。

たくさんの人に来てもらいたい気持ちはありますが、学生主体のため、人数が多すぎても対応が難しいと思います。また、参加者はリピーターが多いのですが、アンケートをとると、PRを行っていることはあまり知られていません。どこで知ったかときくと、知人の紹介やチラシを見て、という方が多いです。

PR活動に関しては、考えなければならぬのは同じ状況であると思います。

【学生】

平塚市を拠点としているチームとして印象が強い、湘南ベルマーレと連携した事業展開を望む方も多いのではないかと思います。

このように団体とタイアップしてPR活動を行っていくのも手段ではないでしょうか。

【学生】

私はバスケットボール関係の連盟に所属しています。

客数は年々増えていますが、高齢者へのPRは難しいと考えます。ウェブサイトやSNSでの告知がメインだと、どうしても同世代がターゲットになります。

よってターゲットを絞ってPRを行うほうが効果的ではないでしょうか。

【伊藤教授】

数年前に、研究室で学内におけるポスターの効果を調査したことがあります。結果的に、ポスターによる周知度は4～5%に留まりました。今の時代、ポスターの効果はあまりないのではないかと思います。

長崎では、地元のスポーツクラブ・チームをPRのツールとして使っており、口コミでの広がりがとても大事であると考えています。

【市長】

本市では、小学生に対し、湘南ベルマーレ、横浜DeNAベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズ、川崎ブレイブサンダースの試合を無料で観戦できる「ドリームパスポート」を発行しています。これにより、若い世代からプロの競技を観てもらおうことで、スポーツに慣れ親しんでもらえるよう意識付けをしています。

チームにも、小学校での技術指導など協力していただいております、これらを通してスポーツを広めていきたいと考えます。

【伊藤教授】

アメリカのメジャーリーグ球団、ボストン・レッドソックスのチームにおける調査でも同じ傾向があります。6歳までに実際に球場に行って試合を観戦すると、大きくなってからリピーターとなるという結果があります。そのため、小学生のうちにスポーツに触れることは非常に重要であると思います。

【市長】

リトアニア共和国は、バスケットボールが非常に強い国です。以前、大使が総合体育館で試合を視察した際に伺ったのですが、リトアニア共和国ではバスケットボールは国技のようなもので、小さい頃から競技に触れているため、日本に比べ相当高いレベルにあるようです。

【総合公園課課長代理】

平塚市総合公園の体育施設の利用者数は、毎年、週末は100%となっており、予約を取れない団体も多くあります。

現在は、湘南ベルマーレの試合など、大きな大会を優先的に入れています、市民のための施設ということもあり、優先順位を付けてよいのかという考えもあります。

施設が大きくなれば、さまざまな団体やプロスポーツが入ることができ、新たな展開が可能です。

体育施設の老朽化が大きな問題となっている中、学生の皆さんとしては、どんどん施設を大きくして選手や観客を増やしていった方がよいのか、市民利用のためにまんべんなく使われていくべきか、どのように考えますか。

【学生】

どちらも、という考えです。

私は他市在住ですが、現在、公共施設体育館の建て替えが行われており、体育施設の他に、高齢者の憩いの場、レストランなどが入る予定と聞いています。

公園は日常生活で多くの人を使う場所なので、週末だけしか利用されないのであれば、維持費・管理費がネックになると思います。それ以外の日常生活に関わる場所でどれだけ市民が利用できる場であるかがカギとなると考えます。

【総合公園課課長代理】

現在、平日の公園利用者は高齢者が多いです。

あらゆる人が便利に使ってもらえるよう、施設の改修をすすめる予定です。

7 まとめ

【伊藤教授】

今回は、市長をはじめ各担当課の方々に御協力いただきありがとうございました。

学生からの提案は、財政面も考えず一方的な大胆すぎる内容だったと思います。

スポーツは平塚市にとっても、東海大学にとっても大きな推進力であると思います。今後とも協力しあって、お互い発展できるような形を取っていきたいと思います。

本日はありがとうございました。

【市長】

本日は5つの提案を含め、様々なお話をいただきありがとうございました。いい所を突いているなという感想です。

これから、まちの魅力を高めるためにはどうすればよいか、財政面も考慮しながら考えていかなければなりません。そのためには、若い世代の皆さんが市政に着目してくれることに意味があると思っています。

東海大学には、これまでもさまざまな形で平塚市を支援いただいています。加えて、皆さんのお力をいただける範囲で連携・支援をいただき、一緒にリトアニア共和国との交流、オリンピック・パラリンピックに携わっていただければ心強いです。

今後も、平塚のことを頭の片隅に入れていただき、一緒に平塚のまちづくりをしていただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。

